

## 診療科の紹介（13）

## 循環器科

循環器科診療部長

むらおか まさと  
村岡 理人

桐生厚生総合病院循環器科は、現在常勤医師1名と非常勤医師6名で診療を行っています。

対象となるのは、心臓や血管の病気です。ポンプとしての心臓の働きが低下してしまう心不全、心臓に栄養を送る冠動脈が詰まったり狭くなったりしてしまう心筋梗塞や狭心症、手足の動脈が詰まったり細くなってしまう閉塞性動脈硬化症や不整脈をお持ちの患者さんに対する検査・治療を行っています。

病状の進行した患者さんには、手首の付け根からカテーテルという管を体内に入れて心臓の状態を調べる心臓カテーテル検査や、そのカテーテルを使った血管内治療を行っています。なるべく患者さんの負担を減らすよう、検査施行時間や入院期間の短縮にも努めております。他にもペースメーカーや人工血管といった機械・用具を使用して病状の回復をはかることもあります。

さらに、2010年3月から放射線科に128列マルチスライスCTが導入となり、より身体の負担が少なく循環器系の検査が施行できるようになりました。これまでカテーテルでしか分からなかった血管の病気も、外来での簡単な検査で発見できる可能性もあります。

8階病棟スタッフと共に…



入院の場合、主病棟は8階病棟ですが、ICU・救急外来・手術室・血管造影室等で適宜症状に合わせた治療を行います。医師のみでなく看護師・臨床工学技士・診療放射線技師等が一体となって治療を行っており、夜間・休日等の緊急検査時にも速やかに検査がスタート出来るような体制をとっています。

外来には、ほぼ毎日循環器科医師が出ておりますので、お体に不安のある方は遠慮なく外来を受診してみてください。

私は、常勤医として桐生厚生総合病院に来て約半年になります。

「先生は、選択出来る中で最も困難かつハードな道を選びましたね」と、前勤務地の病院を離れる際、同僚の循環器医に言われた言葉です。

赴任してみてどうだったか・・・まだ結論は出ません。

閉塞感・虚脱感と希望が混在し先は全く不透明ですが、幸いなことに向上心・向学心に溢れたスタッフに囲まれています。今は、自分を含め桐生厚生総合病院循環器診療に携わる多くの職員の気持ちを信じて、行けるところまで行ってみようと思っています。



## 循環器内科のご案内

循環器内科診療部長 くわばら 桑原 わたる 渉



循環器内科とは聞きなれない科かもしれませんが、循環器内科の専門領域は血液の循環に関わる臓器、つまり心臓および血管の病気を診療する科であり、主には心臓病科ということになります。そこで心臓病にはどんなものがあるか？どのような症状の時に受診が必要か？について代表的な病気についてお知らせしたいと思います。

### ①狭心症・心筋梗塞

心臓自身も他の臓器と同様に、動脈から酸素を受け取っています。心臓には酸素を供給するために冠動脈と言う血管があります。右冠動脈（1本）と左冠動脈（2本）の計3本の血管により酸素が供給されています。

なんらかの原因によって、この冠動脈の内腔が狭くなる（冠動脈狭窄）、もしくは詰まってしまう（冠動脈閉塞）と、酸素が足りなくなった部位は心筋の虚血（心臓の酸素欠乏）を生じます。この状態を、虚血性心疾患といい、狭心症や心筋梗塞が代表的なものです。

冠動脈の狭窄・閉塞の原因は、動脈硬化によるものがほとんどですが、冠動脈の攣縮（れんしゆく一時的なけいれん）によっても生じることがあります。狭心症と心筋梗塞の違いは、狭心症の段階で治療が行えれば心筋は壊死せず心機能は正常を維持できます。心筋梗塞に陥った場合は心筋壊死を来しており、厳密には元通りの心機能には戻れません。なるべく早い段階での治療が心機能維持に直結します。

冠動脈の動脈硬化の有無は、入院しなくても外来でのCT検査で確認することができます。

### ②不整脈

不整脈には、危険なものから治療を必要としないものまで様々な種類があります。また、不整脈の種類によっては脳梗塞（心原性脳梗塞）の原因となるものもあります。動悸や脈が飛ぶ、失神などの症状がありましたら不整脈の可能性があるので受診をお勧めいたします。血液検査や24時間心電図検査、心臓超音波検査などが必要と考えられます。

### ③心臓弁膜症

心臓の中には4つの弁があります。弁膜症は、弁の開きが悪い→狭窄症、閉じが悪い→閉鎖不全症（逆流）の2種類の障害が考えられます。弁膜症が原因で心不全や、不整脈を来したり、失神を生じたりした場合にそれらの症状が出現します。それまでは特有の症状はないため発見が遅れがちな病気です。

健診や診察時に心雑音を指摘された場合、特に強い症状はないのに心不全と言われた際などには、心臓弁膜症の可能性があるので受診をお勧めいたします。心臓超音波検査により弁膜症は検査できます。また、心不全や不整脈の際にも弁膜症の有無の確認が必要です。

### ④心不全

心不全とは、全身が必要としているだけの血液の循環を保てない状態のことをいいます。肺に水が溜まり（胸水）苦しくなったり、浮腫といって足がむくんだりすることによって発見されます。慢性的な経過の場合は通常体重増加も認められます。

心不全は結果としての病名ですので、そこに至るまでには原因があります。心臓超音波検査を行い心機能や弁膜症や不整脈の有無などの確認が必要になります。

以上、ごく簡単に説明させて頂きましたが、心臓病は各々が互いに原因となったり結果となったり関連していることもあります。

♥上記のような症状があるときは、心不全や心臓病が考えられますのでまずはお近くのかかりつけ医を受診してください。